

## 平成30年度第3回常務理事会議事録

日時：平成30年10月5日（金）15：10～17：00

会場：日本産科婦人科学会事務局会議室

理事長：藤井 知行

副理事長：木村 正

常務理事：青木 大輔、苛原 稔、岡本 愛光、加藤 聖子、北脇 城、吉川 史隆

監事：岩下 光利、櫻木 範明、平松 祐司

特任理事：海野 信也、大須賀 穰、荻田 和秀

顧問：小西 郁生、吉村 泰典

理事会内委員会委員長：工藤 美樹、生水 真紀夫、千石 一雄、村上 節、山田 秀人

総会議長：光田 信明

総会副議長：久具 宏司

幹事長：阪埜 浩司

副幹事長：梶山 広明

幹事：岩瀬 春子、上田 豊、織田 克利、加藤 育民、河野 康志、岸 裕司、

桑原 章、佐藤 美紀子、関根 正幸、寺尾 泰久、西ヶ谷 順子

西郡 秀和、馬場 長、平田 英司、矢内原 臨、山上 亘、矢幡 秀昭

事務局：吉田 隆人、加藤 大輔、青野 秀雄

15：10 理事長、副理事長、常務理事 11 名のうち 8 名が出席し（八重樫伸生副理事長、榎本隆之理事、竹下俊行理事は欠席）定足数に達しているため、藤井知行理事長が開会を宣言した。議事録署名人には、理事長、監事の計 4 名を選任し、これを承認した。続いて、本年 8 月 24 日に確定した平成 30 年度第 2 回常務理事会議事録を確認した。

### I. 業務担当理事報告並びに関連協議事項

#### 1) 総務（青木大輔理事）

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

① 田中敏晴功労会員（広島）が 8 月 28 日にご逝去された。（9 月 30 日に報告受領）

(2) 第 74 回学術集会長候補者として、1 名の先生が立候補した。

(3) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会 特になし

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

(1) 国立がん研究センターから、子宮頸がん検診ガイドライン更新版を公開するにあたり、本会に対して 11 月 22 日に開催される公開シンポジウムへの参加依頼があった。本件、婦人科腫瘍委員会で検討し、本会から榎本隆之先生、上田豊先生、宮城悦子先生、吉田好雄先生（代理：黒川哲司先生）の計 4 名が参加することと致したい。 [資料：総務 1, 1-1]

**櫻木範明監事**「同センターの過去のガイドラインでは、HPV 検査を含む方法は対策型検診として勧められないとしている。HPV 検査についての本会の考え方を検討する必要があると思う。」

公開シンポジウムへの参加について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2)10月13日に開催される、日本医師会・日本医学会合同公開フォーラム「HPV ワクチンについて考える」について [資料:総務2]

(3)11月2日に大阪で開催される、子宮頸がん HPV ワクチンの勉強会(第2回)について [資料:総務3]

#### (ハ) 周産期委員会

(1)「無心体双胎に対するラジオ波焼灼療法早期保険適用の要望書を、日本胎児治療学会、日本周産期・新生児医学会と連名で、厚生労働省医政局長、医政局経済課長、保険局長、保険局医療課長あてに提出したい。 [資料:総務3-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2)日本精神神経学会から推薦依頼のあった「精神疾患を合併した、或いは合併の可能性のある妊産婦の診療ガイドライン検討委員会」のメンバーとして、既に承認済の下屋浩一郎先生(他、佐藤昌司先生(大分県立病院)、鈴木俊治先生(葛飾赤十字産院)、小谷友美先生(名古屋大学)の3名が加わる事となった。なお4名分の交通費等については本会負担となる。

**藤井知行理事**「このガイドラインには本会の名前が入るのか。」

**青木大輔理事**「合同ということなので入ると思うが確認する。」

**藤井知行理事**「入るということならば交通費等の本会負担は了承したい。」

#### (ニ) 女性ヘルスケア委員会

(1) 書籍頒布状況(9月20日現在)

①低用量経口避妊薬・低エストロゲンプロゲステン配合薬ガイドライン2015  
書籍版:5,370冊

②ホルモン補充療法ガイドライン2017  
書籍版:2,969冊

書籍版+ID/PW付き:978冊(うち、ダウンロード済み503件)

③女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針  
書籍版:849冊

(2)日本肥満学会から依頼の日本医学会連合「領域横断的肥満症ワーキンググループ」23学会連名の「神戸宣言2018」について承認したい。なお委員会内で検討して原案に対して資料赤字部分の追記を申し入れている。 [資料:総務4]

**北脇城委員長**「女性ヘルスケア委員会で検討して、女性についての記述を追記した案を出したが、少しマイルドな表現で戻ってきた。委員会としてはこれで了承したいと考えている。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3)厚生労働省医薬品審査管理課から、11月14日に開催される「要指導・一般用医薬品部会」で、平成28年に本会が意見提出したメンソレータムフレディCC1、CC1Aについて参考人出席を求めてきた。提出の際の委員長であった高松潔先生に出席をお願いしたい。

[資料:総務4-1]

北脇城委員長「スイッチ OTC とするには時期尚早と考えている。高松先生に出席いただきたい。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 事務局の働き方改革について

[資料:総務 5]

青木大輔理事「36 協定を締結したので今後は残業の厳格な管理が必要となる。そのためには業務の効率化を行い選択と集中が求められるが、そのなかで事務局が依頼される業務のすべては引き受けられない場合があることをご了解いただきたい。」

藤井知行理事「今までが事務局に過大な負担を与え過ぎていたので、幹事の先生の業務が増えることがあるかもしれないが、よろしくお願ひしたい。」

## 〔Ⅱ. 官庁関係〕

### (1) 厚生労働省

①厚生労働省雇用環境・均等局雇用機会均等課より、「仕事と不妊治療の両立に係る周知広報」についての周知依頼を受領した。本件は本会ホームページに掲載して本会会員に周知した。

[資料:総務 6]

②厚生労働省医政局研究開発振興課より、造血幹細胞移植法上の「造血幹細胞移植」の解釈の明確化についての周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。

[資料:総務 7]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

③厚生労働省子ども家庭局母子保健課より、災害時の母子保健対策に関するマニュアル等についての情報提供があり、本会ホームページに掲載して本会会員に周知した。

[資料:総務 8]

④厚生労働省子ども家庭局母子保健課より、平成 30 年北海道胆振東部地震による災害により被災した妊産婦および乳幼児等に対する支援のポイントについての周知依頼があり、本会ホームページに掲載して本会会員に周知した。

[資料:総務

9]

⑤厚生労働省医薬・生活衛生局長より、「血液製剤の使用指針」の一部改正について周知依頼を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。

[資料:総務 9-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 〔Ⅲ. 関連団体〕

### (1) 日本医学会連合

内閣官房健康・医療戦略室が今後の医療分野の研究開発についての戦略・計画を改定するにあたり、日本医学会連合から各分科会あてに、我が国の健康寿命の延伸に資する医療分野の研究開発の重点項目についての意見を聞いてきたので、専門委員会で回答案を作成した。

[資料:総務 10-1, 10-2, 10-3]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (2) 日本医学会

①日本医学会から、日本医学雑誌編集者組織委員会と日本医学会利益相反委員会共同で「日本医

学会 129 分科会の医学雑誌編集と COI 管理にかかるアンケート調査」を受領した。編集およびコンプライアンス委員会で回答を作成した。 [資料:総務 11]

②日本医学会から、第 2 回日本医学雑誌編集者会議ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウムの開催案内があり、本会から加藤聖子編集担当常務理事、山田秀人コンプライアンス委員会委員長が出席する。 [資料:総務 12]

③日本医学会から、アメリカ医師会・日本医師会共同シンポジウムの出席案内を受領した。 [資料:総務 13]

**青木大輔理事**「編集で出席者の推薦を検討いただきたい。」

検討の結果、岸裕司幹事が出席することになった。

④来春開催される第 30 回日本医学会総会について、日本医学会より分科会会員に「分科会応援早割」を適用するとの案内があった。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料:総務 13-1]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

⑤日本医学会を通して厚生労働省医薬・生活衛生局長より、医療用医薬品の販売情報提供活動に関するガイドラインについて周知依頼があった。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料:総務 13-2]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

⑥日本医学会を通して厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課長より、「献血血液等の研究開発等での使用に関する指針」に基づく公募の実施について周知依頼があった。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料:総務 13-3]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

### (3) 日本歯周病学会

日本歯周病学会から、歯周炎の簡易的な評価指標 (PISA) を導入したという通知を受領した。

[資料:総務 14]

### (4) 日本循環器学会

日本循環器学会の先天性心疾患の移行医療に関する横断的検討会には、本会から国立循環器病研究センターの吉松淳先生に参加いただいているが、同学会から継続して委員をお願いしたい、との依頼があった。吉松先生は承諾しており、本会としても了承した。 [資料:総務 14-1]

### (5) 日本 IVR 学会

日本 IVR 学会から、本会と合同で子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術 (UAE) に関するアンケートを実施したいとの申し入れがあった。合同でアンケートを行うことの同意と担当者の推薦を求めている。 [資料:総務 14-2]

**青木大輔理事**「UAE を行っている施設の先生が窓口になるとよいと思う。」

**木村正副理事長**「大阪大学では行っている。」

**青木大輔理事**「それでは木村先生に人選をお願いしたい。」

日本 IVR 学会と合同でアンケートを行うことおよび担当者の推薦を木村副理事長に一任することについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 日本高血圧学会

日本高血圧学会から、同学会が改訂中の高血圧治療ガイドライン 2019 の外部評価を行うリエゾン委員の推薦依頼があった。 [資料：総務 14-3]

**青木大輔理事**「周産期委員会のなかで推薦者を決めていただければよい。」

本件は周産期委員会に一任することについて特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 予防接種推進専門協議会

予防接種推進専門協議会から、同協議会でまとめた風疹緊急要望書（案）への本会の参加依頼があった。周産期委員会は参加に賛成しており、本会として承諾したい。 [資料：総務 14-4]  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(8) 女性アスリート健康支援委員会

女性アスリート健康支援委員会が 12 月 22 日に養護教諭および学校医、スポーツ活動に係る指導者を対象としたシンポジウムを開催するにあたり、本会ホームページに掲載してほしいとの依頼があった。 [資料：総務 15]  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(9) 日本子宮内膜症啓発会議

日本子宮内膜症啓発会議が東京都福祉保健財団の事業「ライフステージに応じた女性の健康推進のための思春期教育サポート事業」を行うにあたり、本会から委員を出して欲しいとの依頼があった。東京都在住か在勤の先生の推薦を求めている。 [資料：総務 15-1]  
**藤井知行理事長**「これは東京都の事業かと思うが、ここでの日本子宮内膜症啓発会議の役割はどのように考えればよいか。」

**大須賀穰委員長**「委託事業として受託しているのではないかと思うが、確認する。」

本件は同会議の役割を確認の上、委員の推薦を生殖・内分泌委員会に一任することについて、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(10) 日本乳癌学会

日本乳癌学会から、「第 27 回日本乳癌学会学術総会」（2019 年 7 月）において、本会との共催パネルディスカッションの開催依頼を受領した。 [資料：総務 15-2]  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

[IV. その他]

(1) GID（性同一性障害）学会より、「GID（性同一性障害）学会第 21 回研究大会（岡山）」（2019 年 3 月 23 日・24 日、於：岡山県医師会館）への後援名義使用申請を受領した。経済的負担はなく例年の依頼であることから、これに応諾したい。 [資料：総務 16]  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(2) 日本女性医学学会より、「メノポーズ週間」（10 月 18 日～10 月 24 日）への後援名義使用申請を受領した。経済的負担はなく例年の依頼であることから、これに応諾したい。 [資料：総務 17]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) 女性アスリート健康支援委員会より、「平成 30 年度一般社団法人女性アスリート健康支援委員会シンポジウム 思春期の運動性無月経を考える～正しい知識で未来を創る～」(12 月 22 日)への後援名義使用申請を受領した。 [資料:総務 18]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) ウィメンズ・ヘルス・アクション実行委員会、中日新聞社より、「ウィメンズ・ヘルス・アクション in 名古屋シンポジウム」(10 月 19 日)への後援名義使用申請を受領した。経済的負担はなく例年の依頼であることから、これに応諾したい。 [資料:総務 19]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 一般社団法人中央味噌研究所より、平成 31 年度研究助成募集の案内を受領した。本会ホームページに掲載して本会会員に周知したい。 [資料:総務 20]

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 2) 会 計 (吉川史隆理事) 特になし

## 3) 学 術 (木村正副理事長)

### (1) 学術委員会

#### (イ) 会議開催

|              |                   |
|--------------|-------------------|
| 第 3 回学術担当理事会 | 12 月 7 日 (金) 【予定】 |
| 第 3 回学術委員会   | 12 月 7 日 (金) 【予定】 |
| 学術奨励賞予備選考委員会 | 12 月 7 日 (金) 【予定】 |

藤井知行理事長「学術集会のシンポジウムの際に、壇上の先生方には机が配置されるが、これは必要だろうか。海外の場合は椅子だけであり、その方がスマートではないか。」

吉川史隆第 71 回学術集会長「しっかりと椅子が必要になるかもしれない。検討はしてみたい。」

## 4) 編 集 (加藤聖子理事)

### (1) 会議開催

|   |          |
|---|----------|
| 10 月 5 日第 3 回和文誌編集会議ならびに第 3 回 JOGR 編集会議 | 10 月 5 日 |
|---|----------|

### (2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況:

2018 年 JOGR 投稿状況 (2018 年 9 月 13 日締め)

|     |       |
|-----|-------|
| 投稿数 | 1,185 |
|-----|-------|

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| Accept                | 119 |
| Reject                | 699 |
| Withdrawn/Unsubmitted | 134 |
| Under revision        | 37  |
| Under review (審査中)    | 193 |
| Expired               | 3   |

2017年 JOGR 投稿分の審査状況 (2018年9月13日締め)

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| 投稿数                   | 1,487 |
| Accept                | 255   |
| Reject                | 1,115 |
| Withdrawn/Unsubmitted | 105   |
| Under revision        | 3     |
| Under review (審査中)    | 2     |
| Expired               | 7     |

(3) 第71回日本産科婦人科学会学術講演会 編集委員会企画について

第71回も第70回同様にワイリーの協力を得て、編集委員会企画を行う予定である。

演者等に関しては、今後検討を進めていく予定である。

**加藤聖子理事**「今年度は若手を対象に論文の書き方をテーマにしてはどうかとの意見が出た。」

(4) JOGR Online Open の価格変更に関して

ワイリーより増額したい (2,700US\$⇒3,000US\$) との要望があった。8月31日開催の編集担当理事会において、ワイリーが発行している他学会雑誌に関して現状を確認するようにとの指示を受けたが、全ジャーナルを値上げするとのことであったので、これを承諾した。

この金額は全額著者負担であり、本会には印税として一部が入金される。

(5) 2月号の発行形態について

[資料:編集1]

来年からの2月号の発行形態の変更について、70巻10月号より会員向けのアナウンスを掲載する予定(巻頭挿入:色紙利用)である。

**加藤聖子理事**「冊子体での発行は減らしたいのでダウンロードできる旨の記述を入れる。印刷冊数は800部と考えている。」

**藤井知行理事長**「会員向けのアナウンスについては、軽くなって使いやすくなるなどの会員にとってのメリットを中心に伝えた方がよい。」

**加藤聖子理事**「了解した。その主旨を入れて修正する。」

(6) 単発の書籍購入について

定款施行細則で学会誌の購読に関して、和文機関誌の購読料 第35条として「和文機関誌は、会員以外でも1年間(12冊) 25,000円の購読料をもって有料で頒布する。」と謳っているが、特に2月号(抄録掲載号)や9月号(倫理委員会登録・調査小委員会報告掲載号)については、単発で

の購入希望があることから、以下の2点について検討したい。

① 単発購読希望に応じても良いか

② 2月号と同様にバックナンバーについて、杏林舎のKaLib storeを利用しても良いか

**藤井知行理事長**「2月号は15,000～20,000円でよいのではないかと。9月号は10,000円でどうか。」

**加藤聖子理事**「2月号は20,000円、他は10,000円で単発購読希望に応じてということにしたい。」  
本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

((7)International Session 多施設共同研究の表記について

[資料：編集当日]

**加藤聖子理事**「いままでInternational Sessionでの多施設共同研究はなかったが、今後増えてくる  
ことが想定される。国内では『多施設』との表記をしていたのでInternational Sessionでは  
『multicentre』と表記してはどうかという案が出ている。」

**青木大輔理事**「かつて1施設あたりの演題数の制限があり、多施設共同はその制限からはずされてい  
たことから、多施設と申告する必要があった。現在ではその制限はないので、プログラム上、多施  
設との表記は不要である。良い研究であれば多施設であろうと単施設であろうと関係ないので、い  
まは区別する必要がなくなったのではないかと。」

**木村正副理事長**「過去の経緯を考えると日本語の表記も要らないということによい。」

**加藤聖子理事**「日本語の表記も省くということにしたい。」

## 5) 渉外 (岡本愛光理事)

### (1) FIGO 関連

①FIGO World Congress 2018 (10月14-19日、於：ブラジル リオデジャネイロ)にて開催の日  
韓台シンポジウム “No Fault Compensation System of Childbirth Accident: Does Childbirth  
accident compensation work?” について、FIGO加盟学会、および理事等へ参加を呼びかけるメ  
ールを発信した。

### (2) AFOG 関連

①The 2nd AFOG-KSGO Young Doctor Invitation Program (10月22-26日、於：韓国 ソウル)に  
ついて本会より推薦した神田蘭香先生(帝京大学)がProgram参加者に選出された。

[資料：渉外1]

**藤井知行理事長**「AFOGのサイトは管理が弱くウイルスに侵されている可能性がある。AFOG本部に  
通知したが、この状況が直らないようであれば本会の会員に注意する必要がある。」

### (3) 日韓台関連

①TAOGより平成30年北海道胆振東部地震の被災支援に関わる義捐金としてUSD2,000を受領した。

**藤井知行理事長**「過去の義捐金は派遣者の交通費等に使用したが、今回は派遣がないので災害対策・  
復興委員会でシステムの強化を図ってはどうかと思う。北海道の千石先生、如何か。」

**千石一雄委員長**「今回の地震は医療面、金銭面での支援が必要な大きな被害やトラブルはなかった。」

**藤井知行理事長**「それではこの義捐金は大規模災害対策情報システムの強化に使ってもらうことに  
する。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

②The 104<sup>th</sup> Annual Congress of KSOG (9月28-29日、於：韓国 ソウル)にて、藤井知行理事長がKSOG名誉会員の表彰を受けた。

③TAOGよりThe 58th Annual Congress of TAOG (2019年3月9-10日、於：台湾台南)に出席の役員3名、およびAOFOGセッションスピーカー(周産期分野)1名の選出を依頼され、本会より藤井知行理事長、青木大輔第72回学術集会長、岡本愛光渉外委員長、第70回シンポジストより谷村憲司先生(神戸大学)を推薦した。

(4) 国際協力機構(JICA) 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)～工場労働者のための子宮頸がんを入口とした女性のヘルスケア向上プロジェクト関連

①9月に阪埜浩司幹事長、矢幡秀昭幹事、藤田則子医師、松本安代医師をプノンペンに派遣した。  
[資料：渉外2]

**阪埜浩司幹事長**「JICA,カンボジア産婦人科学会による3年間のプロジェクトの終了セミナーの翌日に、WHOおよびカンボジア保健省も興味を持って評価していただいたということで両者に活動報告を行った。カンボジア産婦人科学会には国内でこの活動を続けたいので本会に協力をいただきたい、という意向があり、本会としてこのプロジェクトを続けるための申請をJICAに出すかについては検討したい。」

**岡本愛光理事**「WHOからの評価も非常に高いので、本会としても継続の方向で考えたい。健康教育や検診の対象者として学校教員にも拡大し、施設も国立病院や地方の中核病院に拡大する案もあり、JICAやAMEDの資金獲得に向けた活動を行いたい。」

**木村正副理事長**「幹事の先生方にはお忙しいなか、このプロジェクトに多数参加いただき感謝している。大変好評なプロジェクトであり、資金確保して3年程度継続できればカンボジア側も自立して進めていけるようになると思う。」

(5) ACOG 関連

ACOG Executive Vice President and Chief Executive Officer Dr. Hal C. Lawrence, IIIが10月31日付けで引退することとなった。11月1日より後任が決まるまで、ACOG President Dr. Lisa HollierがEVP & CEOを暫定的に務める予定である。  
[資料：渉外3]

## 6) 社 保 (北脇城理事)

(1) 会議開催

|          |               |
|----------|---------------|
| 第2回社保委員会 | 11月16日(金)【予定】 |
|----------|---------------|

(2) 日本医師会疑義解釈委員会より、「平成30年度 医療機器・体外診断用医薬品の供給停止予定品目」についての検討依頼を受領し、本会理事、および社保委員による検討結果を回答した。

(3) 昨年までに登録済みのロボット支援下婦人科悪性腫瘍手術実施登録施設、およびロボット支援下婦人科良性疾患手術実施登録施設へ2018年実施手術報告用CDを発送した。今年登録の施設には承認書発送時に報告用CDを同封している。(返送締切：2019年2月15日)

## 7) 専門医制度（八重樫伸生副理事長欠席につき、西郡秀和主務幹事）

冒頭、西郡秀和幹事より、2019年度の専攻医申請受付開始日はまだ決まっていない旨の報告があった。

### (1) 会議開催

|                 |               |
|-----------------|---------------|
| 第3回中央専門医制度委員会   | 9月8日          |
| 第5回研修システム改修小委員会 | 10月24日（水）【予定】 |

### (2) 平成30年度専門医認定二次審査結果、専門医資格更新・再認定・延期願審査結果、指導医審査結果、専攻医指導施設指定更新審査結果

#### ① 専門医認定二次審査 [資料：専門医 1、2]

申請者：369名（他に再申請者53名）

受験者：筆記試験418名（東京222名、大阪196名）、欠席者：4名

面接試験：368名（東京201名、大阪167名）、欠席者：4名

合格者：353名（東京193名、大阪160名）、二次審査不合格者：65名（東京29名、大阪36名）

・最終的な合格率は84.4%となった。合格者については機関誌70巻11号と本会ホームページに掲載する予定である。

#### ② 専門医資格更新審査

更新申請は1971名で、合格は1969名、不合格2名であった。 [資料：専門医 3]

#### ③ 専門医資格再認定審査

・再認定申請は35名で、合格は35名、不合格は0名であった。 [資料：専門医 4]

・新規申請者・更新申請者・再認定申請者ともに、申請者宛に審査結果を通知し、新規申請合格者は専門医登録が済み次第認定証を送付する。更新申請合格者・再認定申請合格者は地方委員会宛に10月1日付の認定証を送付する予定である。

#### ④ 専門医資格更新延期願

資格更新延期願申請は17名あり、延期可は16名、延期不可は1名であった。 [資料：専門医 3]

#### ⑤ 指導医審査

・更新申請は287名で、合格は280名、不合格7名であった。

・申請者宛に審査結果を通知し、合格者は地方委員会宛に10月1日付の認定証を送付する予定である。 [資料：専門医 5]

#### ⑥ 専攻医指導施設指定審査

・更新申請施設は46施設で、合格施設39施設、不合格施設4施設、暫定更新施設3施設であった。

[資料：専門医 6]

・更新申請合格施設は、施設長宛に10月1日付の指定証を送付する予定である。

⑦専攻医指導施設区分変更申請審査

- ・専攻医指導施設区分の変更申請のあった施設は2施設で、変更可施設は2施設であった。

[資料：専門医7]

- ・施設区分一覧は来年4月に学会ホームページに掲載する予定である。

(3) 専門医制度規約施行細則の改定について

実情に合わせ、専門医制度規約施行細則を改定したい。

[資料：専門医8]

**西郡秀和幹事**「専攻医指導施設の指定・更新および暫定指導医についての経過措置について規程した部分について、その目的が終了したので外すこととした。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 日本専門医機構

①会議開催

|                 |       |
|-----------------|-------|
| 第4回研修システム改修小委員会 | 8月27日 |
| 第3回中央専門医制度委員会   | 9月8日  |

②専門研修プログラム整備基準の改定について

[資料：専門医9]

**西郡秀和幹事**「副プログラム統括責任者が1名では実務上の運営が難しいので、3名まで置くことができるようにした。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

8) 倫理委員会（苛原稔委員長）

(1) 会議開催

|   |               |
|---|---------------|
| 「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査に関する指針」改定ワーキンググループ委員会 | 9月19日         |
| 平成30年度第3回着床前診断に関する審査小委員会                  | 10月29日（月）【予定】 |
| PGT-Aに関する小委員会                             | 10月30日（火）【予定】 |
| 平成30年度第4回倫理委員会                            | 11月20日（火）【予定】 |

(2) 本会の見解に基づく諸登録（平成30年8月31日）

- ①ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：87 研究
- ②体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：616 施設
- ③ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：616 施設
- ④顕微授精に関する登録：578 施設
- ⑤医学的適応による未受精卵、胚(受精卵)および卵巣組織の凍結・保存に関する登録：94 施設
- ⑥提供精子を用いた人工授精に関する登録：12 施設

(3) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

9月12日現在申請755例 [承認661例、非承認25例、審査対象外36例、取り下げ5例、照会26例、保留5例、審査中17例] (承認661例のうち49例は条件付)

(4) 「臨床研究審査小委員会」報告事項

①聖マリアンナ医科大学鈴木直会員より申請のあった、「日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会：本邦における卵巣癌（上皮性腫瘍）に対する妊孕性温存治療に関する実態調査」について審査を行い、8月31日に審査結果を報告した。 [資料：倫理1]

③ 埼玉医科大学病院産婦人科左勝則会員より日本産科婦人科学会生殖に関する登録データベース使用申請として承認された、「全胚凍結が生殖補助医療に及ぼす影響の検討」について審査を行い、9月7日に審査結果を報告した。 [資料：倫理2]

④ 埼玉医科大学病院産婦人科左勝則会員より日本産科婦人科学会生殖に関する登録データベース使用申請として承認された、「生殖補助医療における、排卵誘発が妊娠後に及ぼす影響の検討」について審査を行い、9月7日に審査結果を報告した。 [資料：倫理3]

④埼玉医科大学病院産婦人科左勝則会員より日本産科婦人科学会生殖に関する登録データベース使用申請として承認された、「生殖補助医療における、顕微授精が児の催奇形性に及ぼす影響の検討」について審査を行い、9月7日に審査結果を報告した。 [資料：倫理4]

⑤福島県立医科大学ふくしま子ども女性医療支援センター高橋俊文会員より日本産科婦人科学会生殖に関する登録データベース使用申請として承認された、「生殖補助医療治療周期における異所性妊娠発生に関するリスク因子の検討」について審査を行い、9月7日に審査結果を報告した。 [資料：倫理5]

⑥杏林大学医学部付属病院産婦人科岩下光利会員より研究計画変更の申請があった、「脳性麻痺発症および再発防止に関する症例対照研究（承認番号57）」について迅速審査を行い、9月18日に審査結果を報告した。 [資料：倫理6]

⑦東海大学医学部専門診療学系産婦人科学三上幹男会員より研究計画変更の申請があった、「日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会：本邦における子宮頸癌に対する妊孕性温存手術（単純子宮頸部摘出術、準広汎子宮頸部摘出術、広汎子宮頸部摘出手術）の実態調査（承認番号68）」について迅速審査を行い、9月25日に審査結果を報告した。 [資料：倫理7]

⑧順天堂大学産婦人科牧野 真太郎会員より日本産科婦人科学会周産期登録データベース使用申請として承認された、「日本人における既往早産の治療適応に関する後方視的検討」について審査を行い、9月30日に審査結果を報告した。 [資料：倫理8]

(5) 『生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入れ可能な臨床遺伝専門医』制度に登録申請可能な「第4回日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会」の開催について [資料：倫理9]

**苛原稔委員長**「日本産科婦人科遺伝診療学会学術講演会のなかで一定の講演を聞いていただくと、生殖医療に関する遺伝カウンセリング受入れ可能な臨床遺伝専門医として本会ホームページに掲載するが、それにあたっての登録申請について通知を行う。」

(6) 日本医学会「遺伝子・健康・社会検討委員会」内に設置されているNIPT施設認定・登録部会の在り方について

9) 教育 (竹下俊行理事欠席につき、寺尾泰久主務幹事)

(1) 会議開催

|                                   |               |
|-----------------------------------|---------------|
| 第1回 IWJF 打合せ会                     | 10月5日         |
| 試験問題作成委員会コアメンバー会議(女性ヘルスケア分野)      | 11月9日(金)【予定】  |
| 試験問題作成委員会コアメンバー会議(生殖・内分泌分野、周産期分野) | 11月16日(金)【予定】 |
| 試験問題作成委員会コアメンバー会議(婦人科腫瘍分野)        | 11月29日(木)【予定】 |

(2) 書籍頒布状況 9月20日現在

|                                    |       |
|------------------------------------|-------|
| 産婦人科研修の必修知識 2016-2018              | 994   |
| 産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き        | 580   |
| 産婦人科研修の必修知識 2016-2018+例題と解説集       | 578   |
| 産婦人科研修の必修知識 2016-2018 電子版付き+例題と解説集 | 717   |
| うち必修知識ダウンロード                       | 965   |
| 用語集・用語解説集改訂第4版(書籍版)                | 419   |
| 用語集・用語解説集改訂第4版(電子版付)               | 732   |
| うちダウンロード済み                         | 304   |
| 専門医試験例題と解説 2016                    | 1,271 |
| 専門医試験例題と解説 2017                    | 540   |
| 専門医試験例題と解説 2018                    | 1,115 |

(3) 2018年度試験問題作成委員会委員に対する謝意

学会機関誌 70 巻 11 号に氏名を掲載し謝意に替えたい。

(4) 産婦人科専門医のための必修知識 2019

産婦人科診療ガイドライン婦人科外来編作成委員会からガイドライン案を受け取り、必修知識各分野責任者・幹事に査読時に合わせて確認いただくようにしたい。

(5) 専門医筆記試験に向けた例題と解説集産婦人科研修の必修知識 2016—2018 補遺④

来春に標記書籍を発刊する予定であるが、解説文作成にあたっては例年どおり山梨大学平田修司先生にお願いする。教育委員会でも解説文内容につき、確認をする予定にしている。

(6) 第71回日本産科婦人科学会学術講演会時 International Workshop for Junior Fellows (IWJF) 担当者について

第71回学術講演会時 IWJF は3セッションあるため、2018年ACOG派遣者ならびに2019年ACOG/KSOG派遣予定者に参加可否と希望セッションを伺った。セッションの振り分けについては担当校である名古屋大学に委任した。

10) 地方連絡委員会 (八重樫伸生委員長) 特になし

## II. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

### 1) 広報委員会 (榎本隆之委員長欠席につき、梶山広明主務幹事)

#### (1) 会議開催

|                             |                    |
|-----------------------------|--------------------|
| 平成 30 年度第 3 回広報委員会          | 11 月 9 日 (金) 【予定】  |
| 第 22 回 HUMAN+ ・ Baby プラス定例会 | 10 月 25 日 (木) 【予定】 |

#### (2) JOB-NET 公募情報について

①JOB-NET 事業報告 [資料: 広報 1]

#### (3) ホームページについて

①ホームページアクセス状況について [資料: 広報 2]

②MSD 株式会社のバナー広告について、11 月より 1 年間の掲載継続が決定した。

(4) ACOG Website 会員専用ページログイン人数について [資料: 広報 3]

(5) Newsletter Reason for your choice 23 号 (2018 年 10 月号) が発刊された。 [資料: 広報 4]

#### (6) HUMAN+ ・ Baby プラスについて

①東京都福祉保健局少子社会対策部家庭支援課より、10 月発刊予定のリーフレットに HUMAN+ (URL) を紹介したいとの申し入れがあり第 2 回理事会でも承認されたが、同所より「若者世代向けに妊娠・出産等の事をまとめた WEB サイト (10 月公開予定) を作成中である。については HUMAN+を紹介したい (リンクを張りたい)」との申し入れがあり、これに応諾した。

[資料: 広報 5]

②名古屋市健康福祉局健康部健康増進課より「名古屋市の HP に若者世代へ向けた健康情報掲載を検討している。については本会 HP の「一般の皆様へ」と、HUMAN+のリンクを張ることを許可頂きたい」との申し入れがあり承諾した。

### 2) 災害対策・復興委員会 (村上節委員長)

#### (1) 北海道胆振東部地震への対応

2018 年 9 月 6 日未明に北海道胆振東部地震の発生を受け、災害対策・復興委員会より北海道地方連絡委員である齋藤豪教授 (札幌医科大学産婦人科)、渡利英道教授 (北海道大学医学部産婦人科)、千石一雄教授 (旭川医科大学産婦人科) 宛に被害状況の確認と大規模災害対策情報システムの活用を呼びかけた。

藤井知行理事長「入力については、停電した場合の想定も入れて検討いただきたい。」

#### (2) 大規模災害対策情報システム

2018年9月15日(土)、16日(日)に2018年度第1回の災害時小児周産期リエゾン養成研修会が開催され、日産婦学会大規模災害対策情報システムの周知を行うとともに、「本部立ち上げ訓練」の中でシステムの掲示板機能を使用した。(全国から62名が参加)

### 3) 診療ガイドライン運営委員会 (工藤美樹学会側調整役)

(1) 診療ガイドラインに対するアンケートについて [資料: ガイドライン1]

藤井知行理事長「Cの数を減らすというよりも、ずっとCで続いているCQは解説の方に落とすことも考えてほしい。」

(2) 産科編委員会 (板倉敦夫委員長)

① 会議開催

|                       |              |
|-----------------------|--------------|
| ガイドライン2020産科編第6回作成委員会 | 11月7日(水)【予定】 |
|-----------------------|--------------|

② 「産婦人科診療ガイドライン-産科編2017」頒布状況について(9月20日現在)

書籍版: 12,391冊

書籍版+ID/PW付き: 2,228冊

電子版ダウンロード: 2,046件

(3) 産科編評価委員会 (田中守委員長)

(4) 婦人科外来編委員会 (小林浩委員長)

① 「産婦人科診療ガイドライン-婦人科外来編2017」頒布状況について(9月20日現在)

書籍版: 7,504冊

書籍版+ID/PW付き: 1,855冊

電子版ダウンロード: 1,774件

(5) 婦人科外来編評価委員会 (若槻明彦委員長)

① 会議開催

|                          |               |
|--------------------------|---------------|
| ガイドライン2020婦人科外来編第1回評価委員会 | 10月12日(金)【予定】 |
| ガイドライン2020婦人科外来編第2回評価委員会 | 12月5日(水)【予定】  |
| ガイドライン2020婦人科外来編第3回評価委員会 | 12月27日(木)【予定】 |

工藤美樹学会側調整役「ガイドラインは、ページを薄くするというので、解説を短くして引用文献が減っている。そのため、構造化抄録を学会ホームページに掲載してほしい。」

本件について特に異議はなく、全会一致で承認された。

4) コンプライアンス委員会 (山田秀人委員長) 特になし

## 5) 医療改革委員会 (海野信也委員長)

- (1) 第2回理事会において承認された「産婦人科の働き方改革 宣言と提言」を本会ホームページに掲載し、情報提供として厚生労働省あてにも同書面を郵送した。
- (2) 平成30年度「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革 公開フォーラム」について平成31年1月27日フクラシア東京ステーションにおいて開催予定であり、演者およびプログラムについては検討中である。

## 6) 男女共同参画・ワークライフバランス改善委員会 (千石一雄委員長)

- (1) 第71回本会学術講演会において、委員会企画として「産婦人科の働き方改革(医療勤務環境改善)」をテーマに、基調講演+ワークショップを行う予定である。
- (2) 本委員会ホームページ内のコンテンツ「わたしのON/OFF」への投稿掲載について、今年度は「様々な働き方をする女性医師」を中心に掲載する予定である。
- (3) 新専門医アンケート調査について  
平成26年度より新専門医認定審査合格者には産婦人科医師就労状況に関するアンケートを行っている。平成30年度専門医認定審査合格者353名にも同様にアンケートを発送する。

[資料:男女共同1]

## 7) 産婦人科未来委員会 (生水真紀夫委員長)

### (1) 会議開催

|             |               |
|-------------|---------------|
| 新規若手委員選考委員会 | 9月25日         |
| 若手委員会 (引継ぎ) | 10月26日(金)【予定】 |

### (2) 第9回スプリングフォーラム

会期:2019年3月16日(土)、17日(日)

会場:兵庫県淡路夢舞台国際会議場、ウエスティンホテル淡路

### (3) 第13回産婦人科サマースクール開催日程について

会期:2019年8月17日(土)、18日(日)

会場:千葉県かずさアーク

### (4) 第3回プラスワンプロジェクトについて

会期:2019年5月11日(土)、12日(日)

会場:東京都フクラシア東京ステーション

(5) 第14回産婦人科サマースクール

会期：2020年8月22日（土）、23日（日）

会場：かずさアーク

(6) 若手委員の交代

2016年10月から若手委員を務めた委員長・小松宏彰先生、副委員長・草開妙先生をはじめとした12名に替わり、新規若手委員10名を選考し、2017年に若手委員になった的場優介先生を新委員長、細川義彦先生を新副委員長として新委員会を発足させる。

退任される12名の先生には多岐にわたり、積極的に活動をしていただいた。改めて謝意と今後の活躍を期待したい。

(7) 若手委員会OB/OGの名簿作成

若手委員会卒業生名簿作成について9月1日の理事会で承認され、現在名簿作成中である。名簿は産婦人科未来委員会委員長が管理し、必要に応じて開示することができる。

8) 女性活躍のための健康推進委員会（大須賀穰委員長）

(1) 地方学会担当市民公開講座について

[資料：女性活躍1]

9) 医療安全推進委員会（村上節委員長）

(1) 一般社団法人日本医療安全調査機構より、平成30年8月末、9月末での医療事故調査制度の現況報告を受領した。

[資料：医療安全1,2]

(2) 日本医療安全調査機構臨時社員総会が、平成30年10月3日（水）世界貿易センタービルにおいて開催され、理事長代理として村上節委員長が出席した。

10) 公益事業推進委員会（八重樫伸生委員長欠席につき、西郡秀和主務幹事）

(1) ハーベスト株式会社より、若手産婦人科医師の育成/国際交流事業に対して200万円の寄付金を受領した。

(2) 富士製薬工業株式会社より、本会が行う産婦人科医師国際交流事業への賛同により、50万円の寄付金を受領した。

(3) アトムメディカル株式会社より、本会の活動に対して100万円の寄付金を受領した。

(4) 寄附金のお願いを、会員に対して①機関誌に毎号、②毎月一斉配信メールで行うことにした。

## 11) 児童虐待防止のための女性支援委員会（荻田和秀委員長）

- (1) 公開シンポジウム（2月11日開催予定）に向けて通信会議を行った。

### Ⅲ．その他

**村上節委員長**「専門医制度について、厚生労働大臣が日本専門医機構を通さずに学会に直接要請できる仕組みとする省令案が出たそうであるが、厚生労働省に対して、専門医制度、医師の偏在、働き方改革については相互に関連している問題であり、バラバラには解決できないことを学会として十分に主張していただきたいと思う。」

**海野信也委員長**「医師の偏在問題は働き方改革が前提になるので、厚生労働省のなかでもまだすり合わせできない状況である。データを分析している厚生労働省は働き方改革について様々な工夫をしても外科、産婦人科の問題の解決は難しいとみており、外科、産婦人科だけ特別扱いという動きになりかねない状況は続いている。」

以上